

午前10時03分開議

○委員長（出村 勝彦） 皆さん、おはようございます。

それでは、ただいまから北海道新幹線新函館駅（仮称）開業に関する調査特別委員会を開会いたします。

まず、本日の議題の確認ですが、お手元に配付のとおり進めたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（出村 勝彦） 異議がありませんので、そのように進めさせていただきます。

それでは、本日は、前回の委員会で確認をいたしましたとおり、当委員会として今後調査すべき具体的項目と調査の優先順位について協議したいと思います。

皆様のお手元に、事前に各会派から提出をいただきました資料を取りまとめた資料をお配りしております。なお、取りまとめた資料は、これまでの委員会で御発言をいただいた内容についても網羅しております。また、各会派から提出された重複の項目については、統一して表記させていただいております。

資料を取りまとめるにあたり、各会派からの提出項目を当委員会の調査事項である(1)新函館駅－現函館駅間のアクセス等、(2)開業に伴う観光振興、(3)開業に伴う産業振興、(4)その他前3項目以外の北海道新幹線に関する全ての、4分野ごとに分類し、アクションプランの施策コード別に振り分けて、項目の多いものについては、さらに中項目出しをしてみました。

まず、取りまとめた資料を御確認願います。ちょっと一通り見てください。いいですか。

○福島 恭二委員 各会派からそれぞれ出していただいた、それぞれの考え方の。これだけの課題だから、結構精力的にやっつけていかなければ。確かに、ちょっと見ただけでも、これ全て関連ある事項ですからね。

○委員長（出村 勝彦） またゆっくり説明しますが、それでは、私から資料について簡易説明、簡単に説明させてもらいたいと思います。

まず、(1)新函館駅－現函館駅間のアクセス等にかかわりましては、中項目として4つございまして、一つはアクセス列車等について、二つ目は新函館駅について、三つは電化について、四、その他で、計23の調査項目となっております。それから次に、(2)開業に伴う観光振興にかかわりましては、中項目としては7つで、計16の調査項目となっております。次に、(3)開業に伴う産業振興にかかわりましては、中項目で2つ、計4つの調査項目となっております。最後に、(4)その他前3項目以外の北海道新幹線に関する全てにかかわりましては、中項目が5つ、計19の調査項目となっております。これをすべて合わせますと、中項目で18項目、計62の調査項目となっております。先ほど福島委員言われるように、大変多岐にわたっております。なお、一番右の欄の優先順位と、調査項目に二重丸を付しているものについては、後ほど御説明をさせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。そういう、はい。

では、本日の委員会において、これら4つの項目について確認していきたいと思います。1つ目は、各項目の内容確認でございます。2つ目は、調査項目の振り分け先についてでございます。3つ目は、調査の優先順位についてでございます。4つ目は、JR北海道に対する調査項目についてでございます。

それでは、まず一つ目の、各項目の内容確認ですが、ここで、各会派から提出のあった各項目に関わ

り、御質問を受けたいと思います。御質問ございませんか。

○**福島 恭二委員** 私も前回ちょっとお尋ねした、理事者にも聞いたんですけども、これまで新駅の建設に当たっては、何度か団体で交渉したという経過があるやの答弁があったんですけども、實際上、その後函館市として単独で駅舎の構造について、こうしてほしいという、つまりアクションプランにもあるとおり、かねてから我々の議会でも、より乗りやすい、乗り継ぎやすい、いわゆる新八代方式みたいなホームにすべきだということを再三申し上げてきたんですけども、結果として現時点では、それがすべて要望を満たされた内容になっているとはいいがたいものですから、これらについても、今後について明確にさせていく必要があるのではないだろうかかと、こう思って、私どもとしては、この今示されたアクセスの問題については、特に二つ目にあります新駅についてのうちの、最後の新駅計画構想の進捗状況について、これについて特に明確にしていきたいなというふうに思っていますので。あと、それぞれの会派から出された意見ですから、その意見が網羅されているとすれば、ここはこれでいいのではないのかなというふうに思いますので、私どもとすれば、できればそういったかねてより要望してきた内容が生かされているのかどうかをしっかりと確認しながら対応していきたいなと、行くべきではないかなと思っております。そういう意見を持っているということだけは申し上げたいと思いますので。

○**委員長（出村 勝彦）** はい。事前に正副としても皆さん出された項目について協議をさせていただきたい。おっしゃるとおりだと思います。それで、各会派で出されたので、もし疑問点だとか、何か提出会派からの説明を求めたいというようなことがありましたら、聞いておきたいと思いますが、特段なければ、先へ進めたいと思いますが。よろしいですか。はい。

次に、二つ目の、調査項目の振り分け先についてですが、各委員から何か御発言ございますか。

○**本間 勝美委員** (1)のその他の部分に入ってるんですけど、これ共産党から出したものなんですけど、その他の一番最後に新幹線駅—現函館駅間の線路についてということを書かれているんですけども、優先順位が4位となっているんですけども、ここ実は一番のアクセス列車ともかかわってくる問題にもなってくるのかなと思うんですけども。ちょっと説明すると、ちょっとわかりづらいんですけども。七飯駅と渡島大野駅間というのは単線で線路は一本しかないんですけども。現在は札幌に行くときに、函館駅から札幌に行きますよね。七飯駅から右に行くんですけども。二股に分かれますよね。二股に分かれています。上り下りでルートが違ってはいるんですけども、今後新幹線の駅ができると、この構造のままにしておくと、おそらくアクセス列車、リレー列車の運行に、ダイヤ編成上かなり支障があるのではないかなと思うんですけども、この辺やはり優先順位の1番目に入れてもらって、このことについてもJRに確認をしていく必要があるのではないかなと思うんですけども。もう3年しかないのも、もし工事が必要であれば、電化とあわせて行うということも考えられるのかなと思いますので、この部分に関しては項目の1番トップのほうに、関連性があるので、入れていただければなと思っています。

○**委員長（出村 勝彦）** 副委員長のほうから。

○**日角 邦夫委員** このまとめ方の説明なんですけども、1番目に持ってきたのはやはりアクセス列車そのものを持ってきて、次に駅舎を持ってきて、次に電化、その他の段階で、今本間委員の言われたやつが一番最後にあるんですけども、ここも二重丸がついていて、大きくは新幹線開業後の在来線の輸送体系ということで、そのものを言うてもらうというか、というふうに考えたんですけども。実際今言われ

たとおり、あそこは複線化になるんですけども、私が言うよりも、JRの方から複線化しますよというふうに言われたほうがいいですよ。だから、大きな項目として二重丸、4番目なんですけども、4番目の中の一番上の項目というか、輸送体系についてというところで、この問題を。

○委員長（出村 勝彦） 二重丸にはしてるんですよ。

○本間 勝美委員 なるほど。了解しました。

○福島 恭二委員 だから、理解するとすれば、その輸送体系についての関連した問題がこうなってますよということなんだね。

○日角 邦夫委員 これをもって全部やれると。

○福島 恭二委員 これはみんな問題あると。関連すると。はい。

○委員長（出村 勝彦） 次に、三つ目の調査の優先順位についてですが、前回、新駅－現駅間のアクセスについて、1番とすることを確認いたしました。今回、各会派から、アクセスに関わり、大きく4点、アクセス列車等について、新函館駅について、電化について、その他についての各調査項目が提出されており、正副案として、資料のとおり、調査の優先順位をつけてみました。また、(2)の開業に伴う観光振興と(3)の開業に伴う産業振興につきましては、非常に関連性のある内容であることから、効率的な委員会調査を行うため、同一の優先順位としてはどうかと考えてみました。以上のことから、当委員会の調査項目で申し上げますと、1番目に、(1)新函館駅－現函館駅間のアクセス等、2番目に、(4)その他前3項目以外の北海道新幹線に関すること全て、最後に(2)開業に伴う観光振興と(3)開業に伴う産業振興を一括とし、(1)と(4)につきましては、さらに中項目ごとの順とすると。このような優先順位により調査を進めることで、各委員の皆様にお諮りしたいと思います、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

○福島 恭二委員 まず開業に当たって、まず最優先しなければ、すべき課題ということで理解して、そしてそれが一定程度見えた段階で、次の具体的なことにまた、関連したものに入っていくと、こういう段取りで行くとすればいいのではないかと思いますけどね。

○委員長（出村 勝彦） 他にいいですか。

それでは、そのように確認させていただき、今後の委員会の調査状況を考慮しながら、理事者とも調整を図ってまいりたいと思います。

次に、前回、確認をいたしましたJR北海道に対する何らかのアクションについてですが、正副といたしましては、アクセス等にかかわり、緊急性の高い項目については、まずJR北海道に対する調査を行い、現状把握をする必要があると考えております。そこで、今回、正副が取りまとめた資料には、緊急かつ最優先で調査すべき事項については二重丸をつけさせていただいております。先ほどもちょっと本間委員のあれで出ましたけれども。それらについて今、二重丸、確認していきたいと思いますが。

一つ目は、新駅－現駅間のアクセス列車にかかわり、新駅－現駅間の運行について。ダイヤの適正化、停車駅、所要時間、乗車料金等々ありますのでね。それについて協議したいと思いますが。いいですか。はい。そのように決定いたします。

二つ目は、同じくアクセス列車にかかわり、ホーム対面乗車についてということで。

○日角 邦夫委員 市政さんと、これは、民主から出たのはホーム形状のことなので、同じ意味なので一

つにまとめました。

○委員長（出村 勝彦） いいですね。

○福島 恭二委員 これについては、現時点で示されている案からすると、札幌開業までは対面乗車できるような方式にはなってるんだよね。ただ、将来の問題があるものですからね。これはこれで。

○委員長（出村 勝彦） これも調査事項ということで。

三つ目は、同じくアクセス列車にかかわり、車両の乗車人員についてと。いいですね。

四つ目は、同じくアクセス列車にかかわり、デザイン性のある外観や内装、函館を印象づける魅力的な車両の導入についてということで。いいですね。はい。

五つ目、新函館駅にかかわり、橋上駅舎の構造について。

○日角 邦夫委員 これ、意味わかりますか。先ほどは下のホームのほうの。今度は上の。どういうふうになるかという。これを分けてます。

○委員長（出村 勝彦） 新幹線と別ですから。それ、分かれているそうです。私も何回も新幹線に乗っていて、ああ、なるほどなど。改札、違うんですね。

○日角 邦夫委員 その辺がどうなっているのかという質問の趣旨ですね。

○委員長（出村 勝彦） いいですね。はい。

それから、同じく新函館駅にかかわり、新駅計画構想の進捗状況について。いいですね。はい。

それから七つ目、新駅－現駅間の電化工事計画について。これもよろしいですね。

それから八つ目、その他といたしまして、新幹線開業後の在来線の輸送体系について。よろしいですね。

それから九つ目、資料3ページに進みまして、新幹線の函館開業にかかわりまして、新幹線の速度について。トレインオントレインの開発状況などについてということで。よろしいですね。

○福島 恭二委員 これも重要な課題なんですよ。やはりいかに早く来るかということが求められている新幹線ですからね。聞くところによると、今トンネルの中で事故防止というか、あれ在来線と貨物列車ですか、それらとの行きちがう過程の中で、風圧でひっくり返るというような事故が想定されるものだから、この危険防止のためにトレインオントレインというか、いうものを開発されているというような状態なものですから、できれば開業と同時にそういうものができあがってれば一番いいことなんだけれども、その辺についてやはり我々として関心事なものですからね、ぜひ進捗状況といいますか、状況を尋ねてみたいなど、調査してみたいなど、こう思ってますので、ぜひよろしく。

○委員長（出村 勝彦） それでは、一通り緊急かつ最優先で調査を進めていく事項について、二重丸をつけたところを申し上げて御協議いただいたわけですが、これで進めていってよろしいですね。

○日角 邦夫委員 あと、ここで何かわからなかったら、どういう意味なのかあったら、言ってもらえれば。

○委員長（出村 勝彦） いいですね。

それから、これ以外にJR北海道に対して何か御意見というか、こういうことを申し上げていくべきだと、調査項目の中でありましたら。

○本間 勝美委員 ちょっと私も反省しているんですけども、先日函館市内で開かれた身体障がい者の

福祉大会の中で、その新幹線の駅だとか含めて、障がい者にも優しい構造、ユニバーサルデザインとかバリアフリーとかということがちょっと今回盛り込まれていなかったの、私も反省しているんですけど、やはりこれからの時代、障がい者だけでなく高齢者の方、そういった方々の観光需要にも応えていくためにも、新幹線の駅あるいはアクセス列車も含めて、現在の函館駅は大変優れた構造になっているので、そういう意味でもそういう観点をちょっと入れていかなければならないかなと思ってました。

○日角 邦夫委員 当然、駅舎も新しい新型車両もその基準があって、それをクリアしないと駅舎も車両もつくれないというふうになってますから、でも、あえてというか、やはり聞いてもらうことは大事だと思うんですね。言ってもらってもね。

○委員長（出村 勝彦） 今、本間委員から言われました、障がい者、高齢者に優しいユニバーサルデザインを入れてくれと。これ入れておきますね。

○日角 邦夫委員 項目的に入れるとなれば、4番だとか、進捗状況、6番とかにね。

○委員長（出村 勝彦） 今、本間委員のお話ありましたユニバーサルデザインについて、これも入れておくということでよろしいですね。

（「はい」の声あり）

○委員長（出村 勝彦） はい。では、そのようにいたします。

○松宮 健治委員 ちょっとそもそもなんですけど、今蒸し返すつもりはないんですが、これだけの項目があったわけですね。これからJRにさまざま調査に行くんですが、調査とはなってますけど、こちらの要望、思いもあるわけですね。特にアクセスどうなっているんだという。それに対して青写真が一応出てる部分と、はっきりしていない部分がたくさんあって、市の、市議会としての要望等も多分これから出てくると思うんですが、交渉の余地があるのかどうかという、出したからといって全部100パーセントオクチャーって多分ならないと思うんですが、もうほぼコンクリートになっていることに対してこっちがいろいろ言っても、なかなか難しいのかなってあって、そこら辺は今正副にお聞きしても、ちょっと答えることは難しいと思うんですけど、ただ、そこら辺の私どもとしては特別委員会の腹づもりがないと、言うだけ言ったけど、現実一步も進まなかった。なかなかこの調査項目1に挙げていること、1、2、3、4に挙げることが全部解決できるとは限らないので、そこら辺の、何というか、特別委員会としてのスタンスというか、そこら辺は確認なくていいんですか。行ったけど、何かむなしかったというのはちょっとどうかなと思うんですけど。こういうことを本当は3年くらい前にやるべきだったなと僕は思ってるんですけどね。

○委員長（出村 勝彦） 松宮委員、最初の委員会としてJRに、これはいろいろ含めて、要望等も含めて行くわけですよ。今後もやはり積み重ねた努力を、一回ぽっきりではなく、していかなければならんというふうに考えているんです、実は。それから、よくコミュニケーションを相手側ととって、理解を深めていくと。そもそもやはり函館とJR、旧国鉄から始まっているんですよ。だから私らとしては、ここで今まだ議題言ってますけども、新幹線の新函館なんというのは、もう最初から函館に来るという条件で、協定書の問題が出て、それから覚書と、こういったんですけど、常に国鉄時代からの工事局から始まっているんですからね。これはもう私最初から携わってますから。そういう流れがずっとありますので、これが途中で切れてたような状況ですし、ぜひ議論というか、お互いに意見を深めていく必要

があるというふうに思ってます。努力しなきゃだめだと。

○**福島 恭二委員** 今松宮委員のほうから言われたのは当然のことで、もう手遅れの状態にもあるのではないかと思わざるを得ないものもあるんですよ、実際にね。だからもう、委員長が言ったようなことも確かにあるんだけど、もうそれをはるかに超えて、どんどん進められてきちゃってるわけですよ。その間、我々函館市として、議会として市民の要望をきちんと生かすような努力をしてきたのかと思えば、もう時機を逸しているという感じも否めないわけなんですけども、いずれにしてもアクションプランに盛られてるように、やはり市民の総意として確認した事項なわけですから、それを生かすのを、お互いの力を合わせて、かみ合わせて、この要望を生かす努力しなければならないと思うんですよ。今私は、先ほどちょっと言ったように、重点項目の中の新駅計画構想の進捗状況と、こう言っている内容は、やはりそういったことを生かすことができるのかどうか。私どものこういった要求をひっさげて、これから動くわけですけども、もう既に時遅しという問題もあるやの感じもないわけではないんですけども、いずれにしても生かす努力はしなければだめだと思うんですよ。そのためには、この状況、端的に言うと、これはもう計画の変更する用意があるのかどうなのかということまで聞きたいんだ、本当は。けども、それは直接に、ここでこう言ったら身もふたもないんですが、進捗状況を聞きながら、私どもとしてそれをどう受けて対応するかということは、その後考えなければならない問題なんですけども、幸いなことというか、私どものこれは手前味噌ですけども、たまたま新駅は地上駅なんですよ。高架でないですよ。だから、いかようにも変えられることはできるのではないかなという淡い期待はあるんですよ。けども、そういったことを具体的に我々から要求しているのかどうかとなれば、この間聞いたように、理事者としては何も新駅のことについては、構想については参加してないわけですよ。そういうことからすれば、着々とそれと関係なく計画が進められて、北斗とだけこう協議してやってるやの感じもするものだからね。大変なことだと思うんですよ。そういう意味で、今言われたようなこともきちんと生かすという、我々の努力するという責任はあると思うんですよ。ぜひあわせてやっていきたいし、この間本間委員のほうからも料金の問題も出てましたね。これはやはり現駅まで来る場合のお客さんにのみやはり特例を設けるとかね、というようなことなどもね、やはり料金でやる必要があると思うし、それからこのアクセス列車だけでなく、木古内から海峡線がまっすぐ現函館に入ってくるわけですから、やはり木古内から乗り換えをさせるということなども、やはり現函館にいかにお客さんを誘導するかとなれば、そういうことをあわせてやると。だから、電化した列車が新駅と現駅だけ走るのではなくて、やはりそういったところにも配慮した対応をさせるような、していただくような行動も我々が必要でないかなと、こう思うんでね、ぜひそういう意味も含めてのこれからの活動だと思いますので。

○**委員長（出村 勝彦）** 今福島委員おっしゃるように、一步も二歩も遅れてはいるわけですから、それはみんなの努力でなんとか先へ進めていきたいというふうに私も思っております。副委員長も同じだと思います。ということで、よろしいですね。

それでは、これらについて、この9項目について決定させていただきます。

○**日角 邦夫委員** 決定したんですけども、先ほどの松宮委員の要望活動とかとなれば、ちょっときついもの、私自身は意見交換ということの認識だったので、何かこういう要求がありますよと。それに対して返ってきたものに対して、それはなんなのというふうにはならないというか、そこをちょっとやはり

押さえていかなければ。それと、整備新幹線の進捗自体にかかわるようなもの、先ほど福島委員おっしゃってましたけども、どうなんですかと、それで著しく進捗が変わるようなものはやはりもう少し調査していかないとならないのかなという思いはするんですよね。以上です。

○**福島 恭二委員** とにかく交渉ではないからね。実態把握でね。

○**日角 邦夫委員** 結構JRのほうも気にしてるんですよ、すごく。2年前で要請だとかいろいろ行ってきたから、函館市議会って怖いものだなというような、決してそうでないですって、ちゃんとした関係を持たないと、これらの問題も正しい回答が出てこないというか、ダイヤにかかわることは本当に1年前とかそれくらいでないと出てこないんですけども、それが市民の今注目の的なんですよということなんかもやはり伝えていかないとならないというか、そういうふうに思ってますので。以上でございます。

○**浜野 幸子委員** 私も松宮委員と初めは同じような考えを持ってたんです。大変恐縮なんですけど。でも、そういった中で、我々議会、一般市民も、じゃあ今この新幹線の現在の進捗はどういう方向に向かっていることは多くの市民はまだ不透明というかわからないんですよ。ただ、裏を返すと、不安だけ残って、自分たちのアクセスがどうなるか、そういうことも知らないまま前に進んでいるのであれば大変なことになるというお話をあちこちで聞いているものですから、今9項目、これに関してはやはりよく我々の市民の声をJRのほうに伝える意味で、いいなというふうに、初めは私も松宮委員と同じ気持ちでいたということです。進めることには異議はありませんけど。

○**委員長（出村 勝彦）** 今、各委員のおっしゃったようなことも含めて調査と、それからJRとの意見交換のときにも大いに申し上げてください。意見交換を行うことをしたいと、JRとですね。そういうことで進めてまいりたいと思いますが、よろしいですね。はい。

それでは、そのように確認をさせていただきます。

なお、以上の内容については、重複する部分もございますので、ある程度、項目をまとめ、その整理した内容を持ちまして、実際の調査を行いたいと思いますが、そのまとめ方につきましては、正副に一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○**委員長（出村 勝彦）** それでは、そのように確認させていただきます。

次に、日程についてですが、皆様にご相談ですが、正副といたしましては、ちょっと早いんですが、日程等も考慮して、11月27日（火）にJR北海道にお伺いしてはどうかと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○**委員長（出村 勝彦）** いいですね、はい。御異議がありませんので、そのように確認させていただきます。

なお、JR北海道に対しましては、早々に議長名にて公書を送付したいと思いますが、御承知置き願います。

最後にその他ですが、まず、私から1点、閉会中継続調査の本会議での報告については、これまでの協議の内容を踏まえて作成したいと思いますが、その内容につきましては、委員長に一任願いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

○**委員長(出村 勝彦)** 異議がありませんので、そのように決定いたしました。

他に、各委員から何かございますか。

○**松宮 健治委員** ちょっと最近ある企業の社長さんと懇談する機会があったんですけど、話題が新幹線になりまして、企業の重立った方というのはやはりよくわかってないんですね。わかっている範囲のことは説明したんですけど、やはりアクセスのことを非常に心配されていて、駅舎の構造がどうなっているのかもよくわかってませんでしたし、やはり市民の、企業のトップの方の知りたいことはそういうことで、せっかく今回議会として調査に行くわけですから、できればJR北海道に、ここまで今やってますよという、何らかの形でマスコミに発表していただくと、函館市民の方々も、私どもが調査したから全部載るとは限りませんが、やはりそこをちょっと酌み取っていただいて、JRのほうからも函館市民の発信をお願いしたいなど、そういう要望をぜひ、皆さん多分調査に行くと思いますので、そういうやはり市民の率直な意見かなど。やはりJRからのきちんとした、余り公式発表って、まあなかなかできないんでしょうけど、やはりそこらへんをぜひ。最終的には新函館駅で、そして在来線のことで市としてはそういう判断したという経緯もあるので、まだまだわだかまっている市民の方結構多いので。やはりぜひJRにもそういう姿勢を見せていただければとても市民としてはかなり理解が進むかなと思ったものですから、ぜひ要望していただきたいと思います。

○**委員長(出村 勝彦)** 松宮委員の御意見、よく、しかと承りました。

○**日角 邦夫委員** 今の話ですけど、お話はというか、どうですかと。

○**松宮 健治委員** やるかどうかは向こうの判断ですけど。

○**日角 邦夫委員** 考えるんですけど、どうですかと。それはもう向こうにボールを投げちゃうという。あと、企業ですからね、発表できるものとできないものもあると思うので、いろいろ営業も絡むから、そこはもう企業に任すしかないですからね。

○**委員長(出村 勝彦)** こういう声があるということを言っておきます。

○**日角 邦夫委員** 意見交換の場では。

○**松宮 健治委員** よろしくお願ひします。

○**委員長(出村 勝彦)** 意見交換で、また他の委員からもおっしゃってもらって。

○**福島 恭二委員** 今調査に行くけれども、それはトレインオントレインの何か開発状況だとかそういうものも見れるようだから、そういうものを見ると同時に、この内容のことについて意見交換をすると。こう二つの目的があるんですね。それで委員長、その中でそれぞれが疑問点や、質すなり状況を聞くなりということでやればいいんだと思うんですよね。だから、今松宮委員の言われたことも大事なことから、きちんとそこで意見交換をすると。明確な、こうやりますとかっていう答えは出ないんだろうけども、状況、現状については説明されるだろうと、こう思いますので、そういう目的で行くということ。

○**委員長(出村 勝彦)** そう。それと、やはり理事者側にもきちんと受けとめてもらって、前の、やはりあれの対応は僕は悪かったと思ってるんですよ、正直言って。ですから、やはり一体になってこれはやっていかなきゃならんというふうに思っております。

あと、ありますか。

それでは、他にないようですので、これもちましてきょうは散会したいと思います。

なお、27日、ぜひ各委員の皆さん、御参加のほう、御出席のほう、よろしくお願いいたします。

午前10時44分散会